

令和4年度 市長と語る車座ミーティング(意見交換概要)

【開催日時】令和4年10月14日(金)(午前10時～午前11時)

【開催場所】中央公民館第5学習室

【参加団体】東御市女性団体連絡協議会

【参加者数】16名(市長、市職員を除く。)

【懇談テーマ】「すべての子どもを大切に守り育てるために」



※議事については、主な内容を抜粋して掲載しております。

個人のプライバシーに関する部分などについては、一部内容を割愛しております。また、意見交換の内容は開催日時点のものであり、現在の状況と異なる場合がありますことを、あらかじめご了承ください。

【概要】

(会員)

- ①地域の役割としてはどのようなことが必要でしょうか？
- ②‘地域共生型’の居場所づくりについて具体的な考えをお聞きしたいです。

(市長)

まずサポートセンター設立の経緯について説明します。学校へ「行きたい」と思っているのに「行けない」子どもが1人でもいるのなら助けたいと考えました。単に不登校の人数を減らすだけでなく、その子の人生のスタートラインに良い形で立たせてあげたいという思いから、必要なことを政策としてサポート体制を整え、行政と個人で信頼関係を構築していき、「子育て支援」と「子育て支援」を総合力をもって対応していきたいです。

加えて、市の独自の取組として3歳児健診以外に5歳児健診も行っております。取組の理由は出来るだけ早く発達特性や発達障がいに気づき、専門家のアドバイス等をいただいて対応していきたいからです。市を信頼していただき、早くに対応することが大切という考えを共有して、幸せに生きる出発の地「東御」としていきたいと考えております。

(会員)

地域の役割と居場所づくりについて具体的な考えはありますか？

(市長)

助産所とうみが産後ケアのサポートをしております。ママ友づくりや子育ての知恵を共有する場が民間で出来てくると、子育てへの不安が減少すると考えます。また高校生等が集う場所が少ないことは認識しています。

(会員)

市内の空き店舗などの再利用を検討されてはいかがでしょうか？

(市長)

どういった居場所が必要か関心を持つことが重要で、都会ではNPO法人が多くあり運営していることをお手本に東御バージョンが出来たら良いと思います。

(会員)

自分自身が居住地が変わることが多く、その都度保健師さんの訪問など行政からの支援が嬉しかったです。

(市長)

プライバシーの問題もあるが、18歳になるまで状況を共有できるような仕組みが出来ることが出発点となり、そこから関係各課で寄り添っていくことが必要だと思えます。

(会員)

支援学級に入っている子どもへの施策についてお聞きしたいです。

(市長)

学校で相談していただければ学校で対応することが出来ます。どうすれば学校へ通えるようになるのか見極めることが課題だと思えます。専門家等のアドバイスが受けられる場を作っていきたいと考えています。

(会員)

専門家等が来るような場に地域の人を巻き込んでほしいです。そうすることで昔のような温かい地域の取り組みが出来ると思えます。

(市長)

発達特性のある子どもは望むところが違うこともあります。地域一体となって活動することは目標ではありますが、出来る時期等が定まらないと予想され難しいと感じています。

(会員)

自身が子育てしていた時と子育ての仕方や社会の状況も変化しており、祖父母世代が子育ての玄人とは言えない時代と感じています。障がいがある子どもには行政がしっかりと

関わっていただきたいと思います。

(市長)

今まで学校や保育園のハード面に取り組んできたので、今後はソフト面に力を入れて「子育て・子育ち」を頑張っていると言える市にしたいです。